

## ④循環器総合コース

### 1. 研修目標

本コースは、基本研修で修得した循環器診療能力を基本に、一人の患者さんの入院から退院までの検査、診断、治療(手術を含めて)、リハビリなどの一連の診療を、診療部門の垣根を越えて研修することが目的である。患者さんの診療の流れの中で、循環器内科、放射線科、心臓血管外科、麻酔科、集中治療部などを行き来しながら、各診療部門の循環器系の基本的手技を修得し、多種多様なアプローチを研修し、循環器全般に関する研修を深める事ができる。

### 2. 研修指導体制

循環器疾患の検査、診断、治療、リハビリと一連の流れの中で研修を行うシステムであり、一人の研修医に対し複数診療科の指導医が研修指導にあたる。

### 3. 研修指導責任者 前村 浩二

### 4. 研修内容

- (1) 循環器疾患の病状、病態生理、自然予後など、循環器疾患の診断、治療に必要な基本的知識の修得
- (2) 循環器疾患診療の基本的技能及び病態の評価
- (3) 救急医療を含めた呼吸・循環管理
- (4) 循環器疾患に対する治療(薬物治療、カテーテル治療、心臓・血管手術等)
- (5) 退院までの心身両面にわたるサポート・リハビリ

### 5. 研修到達目標

#### 5-1 行動目標

##### A 医療人として必要な基本姿勢・態度

- (1) 患者及び家族と良いコミュニケーション(疎通性、信頼関係)を作るよう積極的に努力を行い良好な人間関係を確立する。
- (2) 医療チームの一員としての役割を理解し、適切なコンサルテーションができ、また他のメンバーとの協調のもと診療にあたる。
- (3) 臨床上の疑問点を解決するための情報を収集して評価し、問題対応型の思考を行う。
- (4) 安全な医療を遂行し、また安全管理の方策を身につける。
- (5) チーム医療の実践と自己の臨床能力向上に不可欠な症例把握と症例呈示、それに基づいた討論ができる。
- (6) 保健・医療・福祉の各側面に配慮しつつ、総合的な管理計画へ参画する。

##### B 臨床研修目標

- (1) 心臓・血管系の発生・構造・機能を理解し、心臓疾患・血管疾患の病因、病理病態、疫学に関する知識を持つ。
- (2) 心臓疾患・血管疾患の診断に必要な問診及び身体診察を行い、必要な基本的検査法、特殊検査法の選択と実施並びにその結果を理解し、これらを総括的に判断し、心臓疾患・血管疾患の診断と病態の評価ができる。
- (3) 診断を基に個々の症例の心身両面に対応して、心臓疾患・血管疾患に対する治療を適切に選択し、チームの一員として安全に実施することができる。
- (4) 予想される合併症、予後について十分に説明ができ、また様々な合併症に対しての問題対応型の思考を行う。
- (5) 呼吸・循環動態を理解し、薬剤による循環管理、呼吸器操作、酸塩基平衡、輸液、感染対策などの管理が適正にできる。

#### 5-2 経験目標

A 経験すべき診察法・検査・手技

- (1) 心臓疾患・血管疾患に関する症状、理学的所見の把握ができ、その評価ができる。
- (2) 画像検査(X線、CT、MRI、超音波検査)、生理学的検査(心電図、呼吸機能検査、動脈血液ガス分析)、トレッドミル運動負荷試験、虚血肢無侵襲的循環動態評価法などの他に心臓血管造影法、心臓血管カテーテル検査法、経食道超音波検査法、心筋シンチグラム、肺換気・血流シンチグラム、RI アンギオグラフィー、プレチスモグラフィーなどの特殊検査の検査結果を解析できる。
- (3) 消毒、局所麻酔、静脈穿刺、動脈穿刺、注射法(皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保)、胸腔穿刺、ドレーン・チューブ類の管理、胃管の挿入・管理、導尿カテーテル挿入、皮膚切開・縫合、創傷処置、気管挿管などの医療の基本的処置が適切にできる。
- (4) 人工呼吸器、除細動器、輸液ポンプ、輸液シリンジポンプ、大動脈内バルーンパンピング(IABP)、経皮的心肺補助装置(PCPS)などの原理を理解し、正しい操作法を修得する。

B 経験すべき循環器疾患

- (1) 心不全
- (2) 狭心症、心筋梗塞
- (3) 心筋症
- (5) 不整脈(主要な頻脈性、徐脈性不整脈)
- (6) 弁膜症(僧帽弁膜症、大動脈弁膜症)
- (7) 動脈疾患(動脈硬化症、大動脈瘤)
- (8) 静脈・リンパ管疾患(深部静脈血栓症、下肢静脈瘤、リンパ浮腫)
- (9) 高血圧症(本態性、二次性高血圧症)